

アジャスターマニュアル (基礎編)

お詫びと訂正のお願い

掲記マニュアルに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

お手数ですが、下記のとおり訂正のうえご使用くださいますようお願いいたします。

【平成17年5月30日 全面改訂発行分】対象

(訂正更新2007年5月)

該当箇所	【誤】	【正】										
第1章 P.8 - 8行目 - 9行目	$F = \sqrt{f_1^2 + f_2^2 - 2f_1f_2 \cos \theta}$ $= \sqrt{40^2 + 60^2 - 2 \times 40 \times 60 \times 0.5}$	$F = \sqrt{f_1^2 + f_2^2 - 2f_1f_2 \cos(180^\circ - 60^\circ)}$ $= \sqrt{40^2 + 60^2 - 2 \times 40 \times 60 \times (-0.5)}$										
第1章 P.11 - 4行目	これを「力の移動性の原理」といい	これを「 作用点移動性の原理 」または「力の移動性の原理」といい										
第1章 P.20 - 2行目	(1.21式)より1Nの力の大きさは、 98g の重さ	(1.21式)より1Nの力の大きさは、 102g の重さ										
第1章 P.34 - 17、18行目	自動車に働く重力 mg を 路面 に垂直な方向と、 路面に水平 な方向に分解すると、	自動車に働く重力 mg を 斜面 に垂直な方向と、 水平路面に平行 な方向に分解すると、										
第1章 P.37 - 17行目	$-\mu' = -1/2g \quad \mu' = -10/19.6 \quad 0.51$	$-\mu' = -1/2g \quad \underline{\mu' = 10/19.6 \quad 0.51}$										
第1章 P.37 - 19行目	$S = 10 \times 2 + \frac{1}{2} \times -0.51 \times 9.8 \times 4 \quad 10$	$S = 10 \times 2 + \frac{1}{2} \times (-0.51 \times 9.8 \times 4) \quad 10$										
第1章 P.52 - 下から6行目	($= 36 \div 3.6 = 10\text{m/s}$)以降の式	: 平均の速さ = 走行距離 ÷ 所要時間 = 5m/s $P = 2,000 \times (10/5) \times 5 = 20,000 \text{ (W)}$ 参考: $20,000 \div 9.8 \quad 2,040 \text{ (kgf} \cdot \text{m/s)}$ $2,040 \div 75 \quad 27 \text{ (PS)}$ また、 $20,000 \div 735 \quad 27 \text{ (PS)}$										
第3章 P.168 - 6行目 - 7行目	$\frac{bh_A^2}{6} = \frac{2bh_A^2}{6}$ $h_B^2 = bh_A^2$	$\frac{bh_B^2}{6} = \frac{2bh_A^2}{6}$ $h_B^2 = 2h_A^2$										
第5章 P.229 - 図5.22	(a) 外転 (AとBの回転は 同方向) (b) 内転 (AとBの回転は 逆方向)	(a) 外転 (AとBの回転は 逆方向) (b) 内転 (AとBの回転は 同方向)										
第7章 P.303 - 21行目	$0.64I_2 = 1.6$	$0.64I_2 = -1.6$										
第7章 P.308 - 下から10行目	って +、- 両電極とも硫酸 塩 (PbSO_4)	って +、- 両電極とも硫酸 鉛 (PbSO_4)										
第7章 P.324 - 12行目	の上部の電極には $-q$ (C) の電圧が与えられ、	の上部の電極には $+q$ (C) の電圧が与えられ、										
第8章 P.330 - 3行目	ガラスやゴムのような 絶縁物 に分けられる。	ガラスやゴムのような 不導体 に分けられる。										
第8章 P.330 - 4行目	かし、物質の中には、 導体 と 半導体 の中間の	かし、物質の中には、 導体 と 不導体 の中間の										
第8章 P.363 - 2行目	CdSは、カド ニウム (Cd) と硫黄 (S) との化合物で硫化カド ニウム という。	CdSは、カド ミウム (Cd) と硫黄 (S) との化合物で硫化カド ミウム という。										
第11章 P.438 - 表11.3 見出し	計量法 旧計量法 新旧計量法	計量法 旧計量法 新計量法										
第11章 P.438 - 表11.3 2行目	重量 kgfまたはtf -	重量 kgfまたはtf N										
第12章 P.457 - (12.20式)	$_{\max} = \frac{\sqrt{F_{\max} - \mu} \cdot mg}{\mu a S}$ $(\text{N} \cdot \text{h}^2 / \text{m}^2 \cdot \text{km}^2)$	$= \frac{\sqrt{F_{\max} - \mu} \cdot mg}{\mu a S}$ $(\text{N} \cdot \text{h}^2 / \text{m}^2 / \text{km}^2)$										
第12章 P.462 - 表12.6 見出し	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;">R</td> <td style="width: 20%;">$X(V^2)$</td> <td style="width: 20%;">$X^2(V^2)$</td> <td style="width: 20%;">$RX(RV^2)$</td> </tr> </table>		R	$X(V^2)$	$X^2(V^2)$	$RX(RV^2)$	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;">R</td> <td style="width: 20%;">$X(V^2)$</td> <td style="width: 20%;">$X^2(V^4)$</td> <td style="width: 20%;">$RX(RV^2)$</td> </tr> </table>		R	$X(V^2)$	$X^2(V^4)$	$RX(RV^2)$
	R	$X(V^2)$	$X^2(V^2)$	$RX(RV^2)$								
	R	$X(V^2)$	$X^2(V^4)$	$RX(RV^2)$								
第13章 P.494 - 3行目 見出し	シリーズ・パラレル(スピリット) ハイブリッドシステム	シリーズ・パラレル(スプリット) ハイブリッドシステム										

【平成17年7月11日 2刷発行分】対象

該当箇所	【誤】	【正】
第1章 P.34 - 17、18行目	自動車に働く重力 mg を路面に垂直な方向と、 路面に水平な方向に分解すると、	自動車に働く重力 mg を斜面に垂直な方向と、 水平路面に平行な方向に分解すると、
第1章 P.52 - 下から6行目	($= 36 \div 3.6 = 10 \text{ m/s}$) 以降の式	: 平均の速さ = 走行距離 ÷ 所要時間 = 5 m/s $P = 2,000 \times (10/5) \times 5 = 20,000 \text{ (W)}$ 参考: $20,000 \div 9.8 = 2,040 \text{ (kgf} \cdot \text{m/s)}$ $2,040 \div 75 = 27 \text{ (PS)}$ また、 $20,000 \div 735 = 27 \text{ (PS)}$
第3章 P.168 - 6行目 - 7行目	$\frac{bh_A^2}{6} = \frac{2bh_A^2}{6}$ $h_B^2 = bh_A^2$	$\frac{bh_B^2}{6} = \frac{2bh_A^2}{6}$ $h_B^2 = 2h_A^2$
第7章 P.303 - 21行目	$0.64l_2 = 1.6$	$0.64l_2 = - 1.6$
第12章 P.457 - (12.20式)	$\mu_{\max} = \frac{\sqrt{F_{\max} - \mu mg}}{\mu aS}$ $(\text{N} \cdot \text{h}^2 / \text{m}^2 \cdot \text{km}^2)$	$= \sqrt{\frac{F_{\max} - \mu mg}{\mu aS}}$ $(\text{N} \cdot \text{h}^2 / \text{m}^2 / \text{km}^2)$

【平成17年5月30日 全面改訂発行分】対象

【平成17年7月11日 2刷発行分】対象

表2.5 おもな金属元素の物理的性質 (下表の赤字が訂正箇所となります)

金属	元素 記号	密度 (室温) kg/m^3 $\times 10^{-3}$	融点 ()	線膨張 係数 (室温) 10^{-6}K^{-1}	比熱 (室温) $\text{kJ kg}^{-1} \text{K}^{-1}$	熱伝導率 (室温) $\text{Wm}^{-1} \text{K}^{-1}$	電気比 抵抗 (室温) m	結晶 構造
亜鉛	Zn	7.1	420	30.3	0.389	116	5.9	hcp
アルミニウム	Al	2.7	660	23.2	0.904	237	2.7	fcc
金	Au	19.3	1,063	14.2	0.129	317	2.4	fcc
銀	Ag	10.5	961	19.0	0.236	429	1.6	fcc
クロム	Cr	7.2	1,890	4.5	0.456	93.7	12.9	bcc
錫	Sn	7.3	232	22.2	0.227	66.6	11	hcp
タングステン	W	19.3	3,387	4.5	0.132	174	5.6	bcc
チタン	Ti	4.5	1,675	8.7	0.523	21.9	42	hcp / bcc
鉄	Fe	7.9	1,535	11.9	0.444	80.2	9.7	bcc / fcc
銅	Cu	9.0	1,084	16.6	0.385	401	1.7	fcc
鉛	Pb	11.4	327	29.0	0.128	35.3	20.6	hcp
ニッケル	Ni	8.9	1,455	13.5	0.446	90.7	6.8	fcc
白金	Pt	21.5	1,772	8.8	0.132	71.6	10.6	fcc
バナジウム	V	6.1	1,890	8.5	0.490	30.7	25.0	bcc
マグネシウム	Mg	1.7	650	25.0	1.025	156	4.5	hcp
マンガン	Mn	7.4	1,245	21.9	0.477	7.6	185	bcc
モリブデン	Mo	10.2	2,610	4.8	0.255	138	5.2	bcc

注：マニュアルに記載の弾性率については機械的性質の要素となるため消去しました。